クラス番号	632	担当教員名	藤井渉
テーマ	障害者福祉の課題を知り、歴史を踏まえた実践を考える		
著書･論文 研究課題等	研究課題：「戦争と障害者」「障害者福祉の実践課題とは」 著書：藤井渉『障害とは何か　―戦力ならざる者の戦争と福祉』（単著、法律文化社、2017 年） 佐々木育子偏『Q＆A 実務家が知っておくべき社会保障　―障害のある人のために』（共著、日本加除出版、2017 年）		

ゼミナール概要

キーワード：障害者福祉、戦争、相模原障害者殺傷事件、福祉政策、歴史、支援、フィールドワーク

目　　的

戦争と福祉について考えられるようになること。障害者福祉現場の一つ一つの問題を、できるだけ丁寧に理解できるようになること。そして、現場の問題について主体的に実践できるようになることを目標に学習を進めていきます。

授業計画

基本的には次の 3 つを中心に演習を通して学びます。

①3 回生では戦争と福祉についてみなさんで学習します。具体的には、アジア・太平洋戦争の歴史、ナチス・ドイツによるホロコーストの歴史、相模原障害者殺傷事件の問題、優生思想の問題、あるいは知多半島などにある戦争遺跡へのフィールドワークも考えています。

②その学習を踏まえ、障害者福祉のテーマを自分で決めます。自分でテーマを決めるのは意外と難しいことです。テーマを決めるためには、自分史にも向き合いながら、意見を交わし、深めていくことで自分なりの「問い」を探すことになります。そのための方法、あるいはその整理を共同で進めていきます。そのためのゼミ合宿も考えています。

③自身で立てた「問い」について、なぜそうなっているのかを考えます。そのために必要な社会資源が図書館です。図書館の使い方についてもレクチャーします。

進 め 方

たいへん恐縮ですが、2021 年 1 月から 7 月末まで育休をお願いしております。そのため、基本的には 8 月以降に固めてゼミを開講していくことになります。7 月末までも何らかの手立てを講じてみなさんにとってできるだけ不利益にならないようにしたいと思います。ゼミでは毎月「藤井ゼミ通信」を発行しています。そこに掲載するリレーエッセーを全員に書いてもらいます（右図）。また、ゼミではできるだけ自由な論議を重視します。自由な論議でぜひ大事にしてほしいのが、人の「いたみ」にできるだけ寄り添ってもらいたいことです。ここでいう「いたみ」とは、傷つけられたという「痛み」だけでなく、「悼み」という意味を含みます。つまり、過去に積み重ねられてきた生に対する悼みであり、ぜひそれに何かしらの敬意を払ってもらいたいということです。実は、そのために学習しなければならないのが歴史で、その意義や魅力についてゼミ全般を通して知ってもらえたらなと思っています。

担当教員からのメッセージ

いま福祉の現場で起こっている問題をできるだけマクロな視点から観察し、歴史に軸足を置きながらその改善に役立てる研究と教育を心がけています。歴史に軸足を置くということは、ものごとを時間軸で捉えることであり、過去を理解することで今何が起きているのか、今後どうなっていくのかが少しずつ見えてきます。そのようなある種の社会の「流れのようなもの」が見えてくると、自分だったらどう働きかけて、軌道修正を図っていくのか、その具体的な実践内容についてじっくりと腰を据えて考えることができるようになります。それを知ってもらえることで、少しでも社会に対して主体的に向き合えるための一助になればと期待しています。